

## イッポンセスジスズメの発消長と被害

村上昭人<sup>1)</sup>・外間数男<sup>2)</sup>

(<sup>1)</sup>県病害虫防除技術センター，<sup>2)</sup>県農研センター名護支所)

### はじめに

タイモの作型は春植，夏植，冬植であるが，需要の多い冬期1月～3月と夏期8～9月の植付けが多い．タイモは植付け10ヶ月～1年後に収穫されることから在圃期間が長く，様々な生育段階が混在する．タイモの主産地では，初夏から秋にかけてイッポンセスジスズメの多発生により生育不良をきたす場合がある．今回イッポンセスジスズメによる被害発生の生態を明らかにすることを目的に被害の実態と発消長を調査した．

### 調査方法

発生調査は，1999年にタイモの栽培地である大宜味村，本部町，名護市，金武町，宜野湾市及びサトイモ栽培地国頭村，名護市，恩納村，石川市，読谷村，具志川市，沖縄市，中城村，東風平町，知念村，具志頭村，糸満市で行った．タイモは比較的大規模であったが，サトイモは家庭菜園的で小規模栽培が多かった．調査圃場は任意抽出とし，幼虫や被害発生の有無を調査した．

タイモの被害調査は1999年8月に大宜味村，本部町，金武町，宜野湾市で行った．調査圃場は任意に抽出し，1圃場あたり200枚前後の葉について幼虫及び被害状況を調査した．

発消長調査は名護市及び金武町，宜野湾市に各地点3ヶ所の定点圃場を設けて行った．調査は1999年7月から2001年3月にかけて毎月行い，1圃場あたり200枚前後の葉について幼虫及び被害の有無を調査した．

### 結果および考察

#### 1) イッポンセスジスズメの発生状況

イッポンセスジスズメによるタイモ及びサトイモの被害は，調査した全ての地点で確認された(図1)．サトイモの被害程度は調査時期や調査地点で違いがみられた．また発生は夏季に多く，冬期に少なかった．

#### 2) タイモの被害実態

被害調査は8月の発生最盛期に行ったところ，調査した34筆中32筆(94%)に被害が確認された．被害葉率は大宜味村と宜野湾市で最も高く，それぞれ68.6%，64.1%であった．また幼虫の寄生葉率は，各調査地点とも0.1～3.7%の範囲にあり，平均1.3%であった(表1)．幼虫は葉片の硬軟を問わずに食害し(写真1)，多発生圃場では全ての葉が食害され，葉脈のみが林立する場合もあった．

#### 3) イッポンセスジスズメの発消長

1999年のイッポンセスジスズメによる被害は，調査開始の7月頃から急増し，8～9月頃にピークに達した．その後台風(18号)襲来で急減し，11月に2回目のピークとなったが，1回目ほど高くなかった．また2000年1月から5月までの被害は極めて少なく，2月から4月まで皆無であった．5月頃から発生し始め，7月に33.3%となったが，8月の台風(8号)襲来で減少し，10月頃まで回復しなかった．しかし11月から増加し始め12月に2回目のピークとなったが，7月より少なく，その後は減少し2～3月は確認されなくなった(図2)．

幼虫の寄生葉率は被害葉率とほぼ同じ傾向を示した．1999年は9月にピークに達し，その後減少した．2000年4月頃から出始め，7月をピークに減少し，10月に再び増加した(図3)．

イッポンセスジスズメによるタイモの被害は，5月頃から発生し始め8～9月にピークとなる一峰性を基本的に示す．しかし台風等の襲来により個体数が急減すると，秋以降に再び増加する二峰性を示すことになると思われる．